

第3章 防災啓発・教育活動

1. 平成26年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 岩見麻子

1. 活動内容と年間スケジュール

平成26年度は、これまでの目的である「企業の災害に対する被害の軽減、復旧の迅速化」を継続し、月1回（原則毎月第4月曜）、愛知工業大学本山キャンパスにおいて開催した。防災セミナーと講演会・講習会・勉強会、防災サロン・ワークショップ、見学会、東日本大震災被災地の視察を柱として積極的に活動し、災害に関する知識の修得、会員相互の交流、切磋琢磨をはかった。運営委員会および運営協議会を開催し、会の運営を審議しながら活動した。活動スケジュールを表1に示す。

表1 平成26年度あいぼう会の活動スケジュール

日期	例会	運営委員会	防災セミナー	防災サロン・WS	講演会 講習会 勉強会	総会 運営協議会	見学会	懇親会 忘年会
4月21日	○				○	○		○
5月26日		○	○	○				
6月23日		○	○	○				
7月28日							○	
8月25日		○	○	○				
9月22日		○	○	○				
10月4-6日	東日本大震災被災地の視察【石巻市・女川町】							
10月27日				○	○			
11月17日		○	○	○				
12月15日							○	○
1月26日		○	○	○				
2月23日				○	○	○		
3月16日		○	○	○				
合計回数	1	7	7	9	3	2	2	2

2. 例会

平成26年4月21日(月) 14:00~17:30

▶ 第1部：講演会

第1部では、あいぼう会会長（愛知工業大学 正木和明教授）挨拶に続いて、名古屋大学名誉教授の溝口常俊氏により「歴史資料から見る災害列島日本」の講演が行われた。

▶ 第2部：平成26年度総会

第2部では、平成25年度活動および会計報告と平成26年度活動方針および予算案、平成26年度防災サロン・ワークショップについて説明が行われた。防災サロン・ワークショップの説明では、防災サロン：石井計義班長が

「南海トラフ巨大地震」、第4WS：早川澄男班長が「防災備蓄品」、第5WS：小池則満班長が「企画・成果展開」について説明した。最後に、内藤克己運営委員長より閉会の辞が述べられて、総会は終了した。

➤ 第3部：最新防災グッズ展示会

第3部では、愛協産業株式会社の協力により、最新の防災グッズを集めた展示会を開催した。

3. 講演会・勉強会・講習会

➤ 平成26年度講演会（通算第4回）：平成26年4月21日(月) 14：00～15：40

講師：溝口常俊氏（名古屋大学名誉教授）

テーマ：歴史資料から見た災害列島日本

➤ 平成26年度講習会（通算第7回）：平成26年10月27日(月) 14：00～15：50

講師：西脇氏、森久氏、大石氏、鈴木氏、小島氏（豊田市消防本部）

小川真護氏（幸田町役場 消防本部）

テーマ：救急法講習

➤ 平成26年度勉強会（通算第13回）：平成27年2月23日(月) 13：00～14：20

講師：打田憲生氏（リスク・コミュニケーター・防災マイスター・技術士・災害ボランティアコーディネーター）

テーマ：三河港・明海地区BCPから学ぶこと



写真1 平成26年度講演会ポスター



写真2 第4回講演会の様子



写真3 第7回講習会（毛布を使用した搬送法）



写真4 第13回勉強会の様子

4. 見学会

▶平成26年度第1回（通算第16回）：平成26年7月28日（月） 13：30～17：30

衣浦港を訪問し、衣浦湾の高潮防波堤の現状を海上から視察した。また、JFEエンジニアリング株式会社からジャケット（栈橋）や栈橋の補強（深梁工法）、ハイブリッド防潮堤などについての説明と、半田市総務部防災監の齊藤清勝氏から半田市における防災の現状や取り組みについての説明を受けた。

▶平成26年度第2回（通算第17回）：平成26年12月15日（月） 13：30～17：30

名古屋大学減災館を訪問し、名古屋大学災害対策室 教授（減災連携研究センター 兼任教授）である飛田潤氏から、屋上実験室や地下免震層の内部についてなど説明を受けた。



写真5 第16回見学会（衣浦港の老朽化した岸壁）



写真6 第16回見学会の様子



写真7 第17回見学会（地下免震層の内部）



写真8 第17回見学会（減災館の屋上実験室）

5. 防災セミナー

防災に関わる各分野の専門家に依頼して、東日本大震災や南海トラフの巨大地震に関連する防災トピックスについてのセミナーを開催した。

平成26年度第1回（通算第20回）：平成26年5月26日

講師：佐々木泉氏（名古屋地方気象台 広域防災管理官）

テーマ：特別警報と防災気象情報

平成26年度第2回（通算第21回）：平成26年6月23日

講師：鈴木信昭氏（中部地方整備局 三河港湾事務所 所長）

テーマ：三河港における地震・津波対策について

平成26年度第3回（通算第22回）：平成26年8月25日

講師：高橋誠氏（名古屋大学大学院 環境学研究科 教授）

テーマ：大津波を生き抜く ―スマトラと東北―

平成26年度第4回（通算第23回）：平成26年9月22日

講師：西守騎世将氏（一般社団法人 災害支援機構）

テーマ：この国の防災への姿勢とその現実 ―東日本大震災・救援活動からみえてきたこと

平成26年度第5回（通算第24回）：平成26年11月17日

講師：大西喜隆氏（大府市役所 生活安全課 危機管理室）

テーマ：東日本大震災の救援活動 ―被災地で何があったか 今何をすべきか―

平成26年度第6回（通算第25回）：平成27年1月26日

講師：宇佐美智伯氏（名古屋市消防局）

テーマ：名古屋市の震災対策について

平成26年度第7回（通算第26回）：平成27年3月16日

講師：北原修氏（国土交通省 中部地方整備局）

テーマ：最近の砂防事業に関する話題

6. 防災サロン・ワークショップ

防災サロンは、「南海トラフ巨大地震」というサブタイトルを設け、防災セミナーの講師の方を交えて意見交換会を実施した。第4WSは「防災備蓄品」をテーマに、最新の防災備品の情報収集や会員企業の備蓄品の現状調査などを実施した。第5WSは「企画・成果展開」をテーマに、防災力検定のシステム改良や防災事例集のリニューアルに取り組んだ。

平成26年度第1回（通算第42回）：平成26年5月26日

平成26年度第2回（通算第43回）：平成26年6月23日

平成26年度第3回（通算第44回）：平成26年8月25日

平成26年度第4回（通算第45回）：平成26年9月22日

平成26年度第5回（通算第46回）：平成26年10月27日（中間発表会）

平成26年度第6回（通算第47回）：平成26年11月17日

平成26年度第7回（通算第48回）：平成27年1月26日

平成26年度第8回（通算第49回）：平成27年2月23日（最終報告会）

平成26年度第9回（通算第50回）：平成27年3月16日

7. 運営委員会

これまで通り、月に1回のペースで運営委員会を開催した。

平成26年度第1回（通算第70回）：平成26年5月26日

平成26年度第2回（通算第71回）：平成26年6月23日

平成26年度第3回（通算第72回）：平成26年8月25日

平成26年度第4回（通算第73回）：平成26年9月22日

平成26年度第5回（通算第74回）：平成26年11月17日

平成26年度第6回（通算第75回）：平成27年1月26日

平成26年度第7回（通算第76回）：平成27年3月16日

8. 運営協議会

平成26年度運営協議会（通算第5回）：平成27年2月23日

運営協議会にて、平成26年度活動報告および平成27年度活動方針の発表を行った。また、活動に関する外部評価を、次の方々（ご所属のみ、50音順）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】

一般社団法人 中部経済連合会、東邦ガス株式会社、名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】

愛知県庁、大府市役所、幸田町役場

9. 東日本大震災被災地の視察

平成24年に続き2度目となる、東日本大震災被災地の視察（愛知工業大学地域防災研究センター主催、あいぼう会後援）を実施した。視察スケジュールは以下の通りである。

▶10月4日(土)：【石巻市】石巻泊浜太陽光発電所・清崎モデルファームの見学

新エネルギー開発の取り組み事例として、大規模な太陽光発電所（㈱サン・エナジー石巻）と、微細藻類の培養プラントである清崎モデルファーム（スメーブジャパン㈱）を見学した。

▶10月5日(日)：【女川町】蒲鉾本舗 高政・女川地域医療センター・町内の見学

蒲鉾本舗 高政と、女川町地域医療センター（旧女川町立病院）、きぼうのかね商店街、復興まちづくり情報交流館などを見学し、町の担当者や語り部ガイドボランティアより説明を受けた。

▶10月6日(月)：【女川町】女川町役場、【石巻市】石巻市役所の訪問・宮城エキスパレスの見学

女川町役場と石巻市役所を訪問し、復旧・復興に向けた取り組みについてそれぞれ説明を受けた。また、石巻市の津波避難ビルに指定されている宮城エキスパレスを視察した。



写真9 石巻泊浜太陽光発電所



写真10 きぼうのかね商店街（女川町）

2. 26年度社会人防災マイスター養成講座

講座責任者 正木和明

1. 講座概要

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。

愛知工業大学を中心として、連携校である名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の教員が参加して平成21年10月に開講した。

2. 26年度カリキュラム

本講座は1年間の課程として、半期3科目（年間6科目）を受講することとしている。各科目は90分授業を15回行うため、年間で135時間の授業を開講することになる。学校教育法に基づき120時間以上の授業を受講した履修生に文科省より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問

題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

平成26年度入学者に対する講義科目と担当教員を表1示す。現在までの新入生数を表1に示す。

表1 科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
秋季	防災学概論	正木
	建築防災論	岡田、内藤（総合資格）
春季	防災リテラシー	倉橋（㈱エーアイシステムサービ）、 落合（㈱ファルコン）
	企業防災論	建部、渡辺（名工大）
	地域防災論	小池、鷲見（大同大）、 早川（あいち防災リーダー会）
全期	防災フィールドワーク	今井（Gフレクション㈱）
	特別研究	正木（コーディネーター）他全教員

3. 25年度秋季履修生

履修生には正規の6科目履修の他に、特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に対応している。平成25年10月入学の秋季履修生は1年間の特別研究の成果を、平成26年7月に、先生方、履修生の前で発表した。過去の履修生も聴講に駆けつけてくれた。発表の後は修了生を囲んで懇親会が持たれた。修了生のネットワークの良さが示された。

表2 25年度秋入学履修生の特別研究テーマ

No	名前	特別研究テーマ
1	足立 育雄	社会福祉施設における実践的事業継続計画（BCP）策定支援を目的とした簡易版ビジネス・インパクト分析（簡易版BIA）の活用と現場力アップの提案
2	石田 将二	BCP策定と今後の課題
3	市川 隆司	犬山西地区防災ハザードマップの整備を通じた自然災害の検証
4	伊藤 公一	社会福祉施設のBCPについて
5	大西 喜隆	事業所の災害対策
6	加藤 憲一	マンションにおける災害発生後の対応
7	成田 修	成田修の災害に強い街づくり
8	松浦 次男	ため池氾濫時のハザードマップとしての利用法
9	山岸 政喜	〇〇工業株式会社のBCOP策定

4. 26年度秋季入学生

平成26年10月7日に入学式を本山キャンパスで開催した。受講生は8名であり、内訳は、製造業（3名）、建設業（2名）、コンサル（1名）、その他（1名）で半期が終了し、平成27年7月に卒業予定である。

表2 累計履修生数

入学季	21年秋季	22年春季	22年秋季	23年秋季	24年秋季	25年秋季	26年秋季
履修生数	10	10	9	10	9	9	8

The image shows a collection of promotional materials for the 'Disaster Master Training Course' (社会人 防災マスター養成講座). On the left is a large poster with a pink and white design, featuring the text 'RIT 盛岡工業大学' and '防災マスター養成講座' (Disaster Master Training Course). The poster lists various topics and benefits, including '無料' (Free). In the center is a screenshot of a website showing a map of Japan and a photo of a damaged building. On the right is a registration form with a phone number 'TEL 0565-48-4858' and a title '社会人 防災マスター養成講座 受講申込書' (Disaster Master Training Course Registration Form).

図1 平成26年度秋季募集用チラシ



写真1 中間発表の様子



写真2 発表後の懇親会（先輩も合流）

3. 緊急地震速報を活用した「第9回防災訓練」の実施

センター長 正木和明

第9回防災訓練は、平成26（2014）年11月7日（金）11時30分～12時30分に実施された。訓練は、これまでと同様、以下のシナリオにより実施された。

想定地震：東海・東南海連動型地震（M=8.5、震央距離140km）

猶予時間：40秒

予想震度：6弱

緊急放送：緊急地震速報により自動起動。サイレン（2回）の後「地震が来ます」の放送が繰り返される。

退避行動：学生は机の下に身を隠すなどの退避行動をとる（あいちシェイクアウト訓練に参加）

避難行動：「揺れが収まりました」の放送で、避難広場への避難行動が開始される。

八草キャンパス対策本部：11時42分設置。12：20解散

八草キャンパス被害発生シナリオ：

11：58 12号館断水発覚、建設中の新棟北側崩落

12：02 Cエリア内3号館火災発生。 12：05消火完了

12：05 1号館学生意識不明者、救急車手配

12：08 愛和会館火災発生。 12：19鎮火

12：14 6号館火災発生。 12：17消火完了

12：19 食堂半焼

12：20 八草キャンパス安全確保、学生等点呼終了

12：20 リニモ・愛環運休

参加者：大学 学生 2,940名、教職員 134名、学外者 53名

専門学校 学生 127名、教職員 18名

高校 生徒 1,550名、教職員 113名

中学 生徒 451名、教職員 44名



写真1 避難広場への移動



写真2 避難広場で安否確認

4. あいちシェイクアウト訓練

服部亜由未・落合鋭充・倉橋奨・中村栄治・正木和明

1. 概要

あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災会議が主唱し、愛知県が主催した防災訓練である。地震から身を守る安全行動として、「1. しせいをひくく、2. あたまをまもり、3. じっとする」を実践する1分間の防災訓練になる。平成26（2014）年9月1日(月)正午の時報を合図に、愛知県下で一斉に「あいちシェイクアウト訓練」が実施された。平成26年度の訓練には、337,536名がウェブサイトなどを通じて登録を行ない、訓練に参加した。

センターは、愛知県からの依頼により、愛知工業大学、あいぼう会、(株)エーアイシステムサービス、(株)ファルコン、シェイクアウト提唱会議らと共に「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」のメンバーとして、訓練の実施に協力した。具体的な協力内容は、昨年度に引き続き、ウェブサイト作成運営、ポスターおよびリーフレット作成、新たな取り組みとして、マニュアルの作成、訓練感想の募集、テレビ撮影などである。以下、愛知県と共に本年度行なった新たな取り組みについて報告する。

2. マニュアルの作成

初年度、平成25年度の参加表明者数は261,702名であった。2年目となる平成26年度の参加表明者増加に向け、状況別マニュアルと訓練参加の流れが分かるマニュアルを作成した。

2.1 状況別マニュアル（買い物編）

シェイクアウト訓練、防災対策を身近に感じ、シェイクアウト訓練への参加促進、防災対策につなげることを目的とし、シェイクアウト訓練の動きを日常生活と結びつけて説明したマニュアルを作成した(図1)。マニュアルは、ウェブサイトに掲載し、自由にダウンロードして活用できるようにした。今後は、異なる状況を想定したマニュアルも作成する予定である。



図1 状況別マニュアル

2.2 訓練参加の流れがわかるマニュアル

シェイクアウト訓練の参加方法を周知させるために、訓練参加の流れが分かるマニュアルを作成した(図2)。訓練前に決める事項から参加表明、事前の確認、訓練実施、訓練の振り返りといった一連の流れを、わかりやすい図と文章で説明するように工夫した。マニュアルはウェブサイトに掲載した。

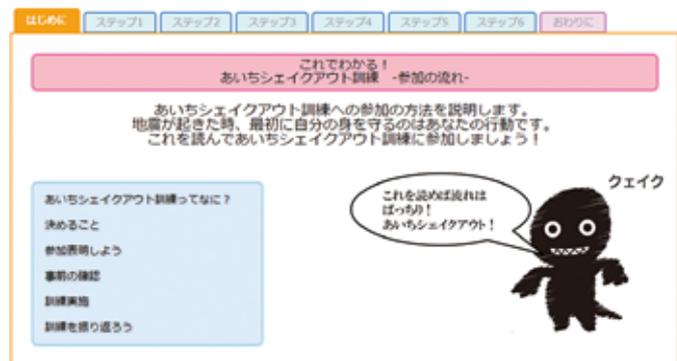


図2 訓練参加のマニュアル

3. 訓練感想の募集

シェイクアウト訓練に取り組んだ様子の分かる写真と感想の募集を実施した。募集にあたり、「あいちシェイクアウト2014ふりかえりシート」を作成し、学校等での利用を想定し、楽しく訓練を振り返ることができるように工夫した(図3)。

投稿作品は、愛知県図書館の企画展示「暮らしの安全を考える」(展示期間：平成26年12月12日～平成27年2月25日)の中で展示し、ウェブサイトに掲載した(図4)。また、投稿作品は、平成26年度の実施状況として、今後の広報活動にも活用する予定である。



図3 ふりかえりシート



図4 投稿作品展示の様子(於：愛知県図書館)

4. テレビ撮影

愛知県広報番組「SKE48のあいちテル!」において、シェイクアウト訓練が取り上げられた。訓練の周知・告知のため、直前の土曜日に放送された(東海テレビ、放送日時：平成26年8月30日(土) 17:26～17:30)。撮影は、地域防災研究センターおよび1号館にて行なわれ、30名の学生がボランティアとして撮影に協力した。

5. 今年度の実績と今後の課題

参加表明者数は、337,536人であり、昨年度より7万人以上増加した。今年度より開始した写真と感想の募集には、21件の応募があった。どれも力作であったため、愛知県図書館ではすべての作品を展示した。図書館に訪れた方に、シェイクアウト訓練とは何かを知っていただく良い機会となったと考える。投稿作品は今後も広報活動に活用し、さらなる訓練参加者の増加を図りたい。上記の取り組みは、今年度より始まったばかりであり、今後も愛知県と共に、あいちシェイクアウト訓練への参加促進、防災対策に向けた取り組みに向けて協力していきたい。

5. 本山キャンパス公開講座「愛知工業大学地域防災研究センター講座」の開催

正木和明

本山キャンパス公開講座の一環として毎年、春季（3回）、秋季（3回）、「愛知工業大学地域防災研究センター講座・私が出会った魅力的な地震学」を開催している。

対象者は一般市民で（定員60名）、春季は本学本山キャンパス（名古屋市中種区）、秋季は八草キャンパス（豊田市八草町）で開催された。この講座は、地域貢献講座として位置付けられているので無料である。

最近の地震防災への関心の深まりのためか参加者は40人程度であり、人気の講座である。

講座内容は以下のとおりである。

(1) 26年度春季講座

講師：正木和明 愛知工業大学地域防災研究センター長

場所：愛知工業大学情報電子専門学校

内容：研究生活をしている中で大きな影響を与えてくれた賢人の中から3名を紹介。

① 5月17日(土) 10:30~12:00

「地震学の祖、ミルンとトネ夫人」

② 6月14日(土) 10:30~12:00

「東南海地震を予知、今村明恒」

③ 7月26日(土) 10:30~12:00

「私の恩師、飯田汲事先生」



図1 春季講座の案内

(2) 26年度秋季講座

講師：正木和明 愛知工業大学地域防災研究センター長

場所：八草キャンパス

内容：南海トラフ巨大地震が発生したと仮定して自宅の被害予測。

予測手法は多くの自治体が採用。断層モデル震度予測、被害予測の順に行う。

① 10月11日(土) 10:30~12:00

「シナリオ地震の設定」

② 11月1日(土) 10:30~12:00

「震度予測」

③ 12月6日(土) 10:30~12:00

「被害予測」

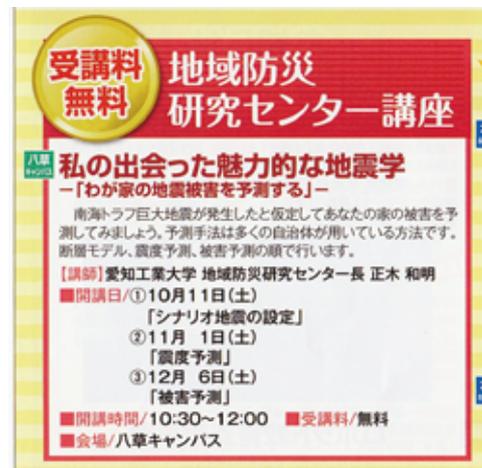


図2 秋季講座の案内

6. 瀬戸消防出初式への出展

正木和明・奥川正之・鳥居一平

2015年1月11日(日)、「瀬戸パーティセと」において恒例の瀬戸市消防出初式が挙行され、地域防災研究センターから、2つのグループが出展した。出展はこれまで恒例となっており、子供たちや市民への防災啓発運動として定着してきた。また、反応も年ごとに好評を博している。

鳥居教授と学生たちは3Dプロジェクションマッピング装置を出展した。この装置は、3Dコピー機で製作された愛知県の立体標高地形モデルに装置の上部に設置された液晶プロジェクタを用いて動画を投影するものである。立体地形の表面に東南海地震における地面の震動の様子が音響とともに体験できるので非常にリアルである。その他、被害の様子、火災の様子も3次元映像としてわかりやすく説明できる。ボタンで震動、被害、火災を選んでスイッチを押すと投影が開始される。この装置は、昨年度も出展したが、その他の出展でも好評であった。本学のオープンキャンパスやとよた交通安全・防災フェスタにも出展した。また名古屋市港防災センターにも導入される予定である。

また、子供たちに好評の紙芝居「いなむらの火」を今年も展示した。

奥川准教授と学生たちも昨年度と同様、ロボットによる救出活動をイメージしたレスキューローラー操縦体験を子供たちに体験してもらった。2m×2mの枠内に、災害による瓦礫を設置し、リモコンでローラーを操作しながら救出活動を展開し、目的地点に到達する操作を行ってもらった。昨年度も大人気であったが、今回も列をなす盛況であった。

今回も瀬戸消防署からの出展依頼がありこれに応じたものである。地域市民に本センターの活動をアピールする良い機会であると同時に、市民啓蒙活動としての成果も上がっている。



写真1 紙芝居「いなむらの火」



写真2 ロボットを子供たちが操縦

7. 愛工大テクノフェア2014に出展

正木和明

平成26年（2014年）11月21日10時～16時、八草キャンパス1号館において「愛工大テクノフェア2014」が開催された。参加者は、学外関係者140名（内企業関係者91名）、学内者512名（内学生487名）、ブース説明者92名、開催者スタッフ30名（内学生12名）、合計774名であった。

冒頭、センター長が「南海トラフ地震に備えた地域防災力の向上技術～緊急地震速報を企業防災対策にどう活用するか～」と題して特別講演を行った。

技術シーズ・ブース展示部門では、当センターから「緊急地震速報配信システム」を出展した。



図1 案内のチラシ



写真1 ブース出展の様子

特別講演・講演会ご案内 | 11月21日(金) 10:30~15:00

特別講演 | 会場：1号館3階メディア視聴覚室



▶ 10:30~11:30

愛知工業大学 地域防災研究センター長・工学部都市環境学科教授 正木 和明

「南海トラフ地震に備えた地域防災力の向上技術」
～緊急地震速報を企業防災対策にどう活用するか～

本学地域防災研究センターは気象庁が緊急地震速報の試験的配信を開始した当初から、近隣の事業所に2次配信し、その活用法に関する研究に取り組んできました。現在は約100事業所に2次配信を行っています。緊急地震速報には警報と予報がありますが、本学はジャストポイントで震度と時間を精度よく予報する後者を配信し、各事業所はこの情報を地震対策に活用しています。緊急地震速報は南海トラフ巨大地震に備えた地震対策に有効な手法と考えられています。講演では、緊急地震速報の原理、配信方法について解説し、事業所の活用事例について紹介します。

図2 特別講演の案内

8. とよた音楽防災コンサートに参加・出展

小池則満・服部亜由未・正木和明

豊田市と愛知工業大学の包括連携協定を締結しており、豊田市が行う防災サミットに関連する行事についても参画している。その一環として行われた「とよた音楽防災コンサート」にて、活動や研究を紹介するパネルの展示および合唱への参加等を行った。本活動は愛知工業大学の地域協働プログラムの一部としても位置づけられた。

開催日時：平成27年1月16日(金) 17：45～19：15

会 場：豊田市コンサートホール

参 加 者：都市環境学科 学生13名 および 正木和明 小池則満 服部亜由未

出展内容：

パネル展示1 「2014年東北視察～復興の今、そして未来へ～」

2014年10月4～6日に地域防災研究センター、あいぼう会（地震に強いものづくり地域の会）で行った石巻市、女川町の視察概要をパネル展示した。

パネル展示2 「防災キャンプを通じた防災意識に関する研究～豊田市立藤岡南中学校を事例として～」

豊田市立藤岡南中学校で行われた防災キャンプへの学生の参画および保護者へのアンケート調査結果をパネル展示した。

クイズコーナー「クイズに答えて「断層せんべい」をゲットしよう！！」

多数の小中学生も参加するイベントであったことから、タッチパネルによる防災クイズコーナーを設置するとともに、参加いただいた方には断層せんべいを配布した。



写真1 パネルおよびクイズコーナー



写真2 参加スタッフ

9. センター見学会

センター見学会では、地震防災・減災を中心とした講義や、「自走ぶるる」を使って過去に起こった地震を体験、緊急地震速報のデモンストレーションなどを行っている。

平成26年度は、自治会など地域ボランティアの方々が8組166名、企業3組158名、小学生1組13名、中学生1組38名、高校生3組128名、教員2組40名、海外の大学から1組14名、その他3組57名、合計22組614名と、たくさんの方々にお越しいただいた。

	日付	曜日	見学者・団体名	人数
1	2014/4/28	月	APLAあいち防災リーダー会 豊田・三井由地区連絡事務	1
2	2014/5/22	木	県立豊田市東高等学校	44
3	2014/5/23	金	足助地区コミュニティ会議 安全安心部会 部会長 松井誠廣	15
4	2014/6/4	水	高等学校教員 入試説明会	15
5	2014/6/12	木	県立武豊高等学校	42
6	2014/7/1	火	豊田市崇化館地区コミュニティセンター	24
7	2014/7/23	水	教)家庭科教員(高校)	25
8	2014/7/24	木	個性が強いこどもを地域で支える会	13
9	2014/9/27	土	常磐東小学校ワークショップ	10
10	2014/10/11	土	東南大学 学生団	14
11	2014/10/11	土	オープンカレッジ	19
12	2014/10/20	月	木曾川中学	38
13	2014/10/25	土	海上の杜技術士会	60
14	2014/10/27	月	あいぼう会	28
15	2014/11/4	火	名古屋市立工業高等学校 電気化1年生	42
16	2014/11/1	土	オープンカレッジ	19
17	2014/11/25	火	大府市横根山自主防災会	37
18	2014/11/27	木	半田市区長連絡協議会 防災交通防犯部会	24
19	2014/12/6	土	オープンカレッジ	19
20	2014/12/20	土	湖西市地域防災指導員連絡会	40
21	2015/2/28	土	瀬戸市陶原連区自治連合会	15
22	2015/3/24	火	豊田市地震対策事業者連絡会	70
合計				614



10. 飯田汲事教授による収集資料の展示・活用

服部亜由未

1. 飯田汲事教授収蔵資料の概要

愛知工業大学地域防災研究センターには、飯田汲事教授によって収集された資料が保存されている。飯田教授は、生前、名古屋大学および愛知工業大学の教授に就任し、各地に残る歴史地震の被害資料を収集し、数多くの研究成果を残された。資料の中で、地震に関する最も古い資料としては、1855（安政2）年、安政の大地震の様子を記した『安政見聞録』『安政見聞誌』がある。他にも、『国郡全図』や『日本地誌略』、『明治地誌』といった当時の地名、地誌を知るために収集されたと考えられる書もある。



図1 以前の展示

2. 資料の展示

これまで飯田汲事教授による収集資料は、センター1階のスチール棚に平置きにされていた（図1）。

資料保護を第一に考えれば、中性紙封筒や箱に保管することが適切であるが、まずは展示を第一に考え、資料保護に少しでも効果があるように、スチール棚に中性紙ボードを敷いた。将来的には、展示には複製品を並べ、資料自体は本学の図書館等に所蔵するように、愛知工業大学の学術研究を通じて収集・蓄積された資料を保存・公開する仕組みを大学全体でとる必要がある。

展示は、資料を見やすくするために、傾斜展示台を設け、資料に負荷をかけないことを注意し、資料の中から適当なページを開いて展示するようにした（図2）。なお、資料に負荷をかけないためにも、見開きのページは一定期間ごとに、変更することを心がける。



図2 新たな展示

3. 資料のレプリカ作成

資料保護を考え、資料をスキャンし、PDFで閲覧することができるようにした。また、資料を手にして閲覧できるように、スキャンしたデータをもとに、複製品を作製した。今年度は、『安政見聞録』『安政見聞誌』に関して、これらの作業を行なった。今後は、他資料についても同様の作業を行なうと同時に、『安政見聞録』『安政見聞誌』を活字化し、過去の災害記録や教訓を情報として提供していきたい。



図3 『安政見聞録』の複製品

11. 地震珈琲の製作

安江健一・鳥居一平・丹羽仁崇・服部亜由未・倉橋奨
倉橋有希・宮本文・山田範子・正木和明

1. 地震珈琲の製作の経緯

地域防災研究センターでは、これまでに「断層煎餅」を製作して、センターの見学会やイベントなどで使用し、一般市民が地震を引き起こす断層の動きを理解する際に役立てている。この度、同様の資料として、多くの方に地震・防災に興味を持っていただけるように「地震珈琲」を製作した。珈琲は、私達の身近な飲物の一つであることから、日頃から珈琲を飲みながらでも地震や防災について考えたり、話したりしていただくきっかけになることを願っている。また、より美味しい珈琲を飲んでいただきたいと考え、複数のブレンドを試飲して使用する珈琲豆やブレンドの割合を吟味した。珈琲豆の選定と焙煎は、Mr. English Coffee Roasting CompanyのThomas G. McBay氏にご協力いただいた。以下にこの地震珈琲の詳細について紹介する。

2. 地震珈琲が持つ情報

地震珈琲に使用した珈琲豆は、ハワイコナ（アメリカ）、マンデリン（インドネシア）、キリマンジャロ（タンザニア）である。これらの豆が生産されている地域は、地震を考える上で重要となるプレートテクトニクスに関連したホットスポット、海溝、大地溝帯が近くに分布しており、地震や火山活動などの自然現象が比較的活発である。これらの珈琲豆をハワイコナ、マンデリン、キリマンジャロの順に1：2：7の割合でブレンドしている。この割合は、1944年12月7日に発生した東南海地震(M7.9)の日にちになんだ数字である。この地震は、第二次世界大戦中に発生した大地震であり、遠州灘沿岸から紀伊半島に渡る一帯で被害が集中した。2年後の1946年12月21日に発生した南海地震（M8.0）とセットに発生した年を知っている人は多いが、日にちを知っている人は少ない。最後に、ハワイコナ、マンデリン、キリマンジャロが多く生産されている国であるアメリカ（America）、インドネシア（Indonesia）、タンザニア（Tanzania）の英語の頭文字を並べるとAITとなり、愛知工業大学の略称となる。本地震珈琲は、ドリップパックで製作しており、そのパッケージの絵は、これらの情報を踏まえてデザインされている（図1&2）。



図1 地震珈琲のパッケージデザイン



図2 実際の断層煎餅と地震珈琲

3. 今後の活用

これまで見学会やイベントなどで使用していた断層煎餅に加え、本地震珈琲を活用して、一味違う地震に係る防災啓発・教育活動を進めていきたいと考えている。また、断層煎餅と地震珈琲は、地域防災研究センターで入手可能であることから、皆様も防災啓発・教育活動の際にご活用いただきたい。

各種実績一覧

■講演会等リスト

正木和明

- ・正光建設(株)安全大会, 「南海トラフ地震と建設業界の役割」, 正光建設社内, 2014年5月16日
- ・夢ナビLIVE2014, 「地震に強い街づくり」, ポートメッセなごや, 2014年7月22日
- ・第3回名瀬地区高等学校家庭科研究会, 「地震(自身)の仕組み」, 地域防災研究センター2014年7月23日
- ・第44回愛知県私学教育研修会, 「南海トラフ地震に備える～東日本大震災の教訓～」, 名古屋ガーデンパレス, 2014年11月11日
- ・教員免許更新講習会, 「生徒と先生のための防災教育」, 愛知工業大学八草キャンパス, 2014年8月21日
- ・名電高校高大接続講座, 「地震に強い街づくり」, 愛工大名電高等学校, 2014年10月10日
- ・三好高校出前講座, 「地震に強い街づくり」, 三好高等学校, 2014年10月30日
- ・平成26年度品野中学校区公民館指導者研修会, 「瀬戸の地震と災害」, 品野台地域交流センター, 2014年11月18日
- ・愛知工業大学テクノフェア2014特別講演, 「南海トラフ地震に備えた地域防災力の向上～緊急地震速報を企業防災にどう活用するのか～」, 愛知工業大学八草キャンパス1号館, 2014年11月21日
- ・名古屋市港区生涯学習センター地域防災コミュニティ講座, 「迫りくる巨大地震に備えて～その時南陽地区は・・・」, 名古屋市港区生涯学習センター, 2014年11月22日
- ・瀬戸市防災講演会, 「瀬戸の土砂災害、水害、震害～地形、地質から見た地域特性」, 瀬戸蔵椿ホール, 2014年12月7日
- ・平成26年度災害時外国人支援ボランティア研修講演会, 「災害時外国人に対する支援活動への提言」, 名古屋国際センター, 2015年1月25日
- ・西春日井危険物安全協会講演会, 「南海トラフ巨大地震に備えて～緊急地震速報を活用した対策～」, 北名古屋市文化勤労会館, 2015年2月20日
- ・第12回豊田市地震対策事業者連絡会, 「地震発生時に事業者ができる事」, 地域防災研究センター, 2015年3月24日
- ・愛知工業大学オープンカレッジ, 地域防災研究センター講座, 「地震学の祖、ミルンとトネ」, 2014年5月17日, 「東南海地震を予知、今村明恒」, 6月14日, 「私の恩師、飯田汲事」, 7月26日, 愛知工業大学本山キャンパス
- ・愛知工業大学オープンカレッジ, 地域防災研究センター講座, 「シナリオ地震の設定」, 2014年10月11日, 「震度予測」, 11月1日, 「被害予測」, 12月6日, 愛知工業大学本山キャンパス

入倉孝次郎

- ・建築学会地盤震動小委員会 地域交流会講演, 「強震動研究の復興 —2つの大震災(1995年阪神淡路大震災・2011年東日本大震災)に学んだこと—」, 神戸大学工学部LR402室, 2014年9月13日
- ・関西地震観測研究協議会(関震協) 地震防災フォーラム, 阪神・淡路大震災から20年—関震協の取り組みとその貢献を振り返る—, 「二つの大震災に学んだこと」, 建設交流館グリーンホール(大阪), 2015年1月9日
- ・北淡国際活断層シンポジウム2015, 招待講演, Estimation of Broadband strong Motions of Engineering Use for Mega-Thrust Subduction Earthquakes, 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場, 2015年1月14日～15日
- ・阪神・淡路大震災20年シンポジウム, 「地震関連科学の到達点と新たな決意」, 兵庫県私学会館, 2015年1月24日

建部謙治

- ・特定非営利活動法人日本防火技術者協会第8回防火研修会、「高齢者施設の夜間の火災安全確保について考える」, 昭和消防署, 2014年11月6日
- ・平成26年度豊田市屋外広告物講習会, 「屋外広告物の施行」, 豊田市役所, 2014年11月20日
- ・名古屋市防火管理者協議会講演会, 「火災・津波からの災害時要援護者の避難について」, 伏見ライフプラザ, 2014年12月11日
- ・東海病院管理学研究会, 「震災時における病院の初動体制とBCP」, 愛知大学名古屋キャンパス, 2015年2月21日

中村栄治

- ・日本フォーム印刷工業連合会技術セミナー, 「電子棚札が拓く新しい世界～授業運営からセキュリティ対策まで」, 東京, 2014年4月15日
- ・精密工学会大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術集中講演会, 「点群データをベースマップとする地下埋設物の可視化」, 札幌, 2014年8月8日
- ・自動認識総合展B/T自動認識セミナー, 「電子棚札の教育での革新的事例の紹介とセキュリティデバイスへの展開」, 東京, 2014年9月16日

小池則満

- ・平成26年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修, 「緊急地震速報を用いた大学防災」, 名古屋工業大学, 2014年8月19日
- ・大学コンソーシアムせとカレッジ講座, 「緊急地震速報で命をまもる」, パルティせと, 2014年9月17日
- ・平成26年度南知多町地域防災リーダー養成講座, 「南知多町における防災対策の今とこれから」, 南知多役場, 2014年10月18日
- ・土地区画整理尾張地区研究会, 「尾張地方の災害リスクと防災まちづくり」, 大府文化交流の杜, 2014年10月21日
- ・日本都市計画学会避難訓練学の提唱と社会的実装に関する研究委員会, 「海から目線の防災～南伊勢町海上避難マップ作成に向けて～」, 古和浦漁業協同組合, 2014年12月9日
- ・日本都市計画学会避難訓練学の提唱と社会的実装に関する研究委員会, 「海から目線の防災～南伊勢町海上避難マップ作成に向けて～」, 伊勢外湾漁業協同組合賛浦, 2014年12月12日

奥川雅之

- ・平成25年度先端科学技術入門, 「レスキューロボット：人が行けない場所を調査するロボット」, 愛知工業大学名電高等学校, 2014年6月18日
- ・PEARLサマースクール2014, 「機構の特徴を活かしたインタラクティブデザインによるロボット設計」, 東海大学高輪キャンパス, 2014年8月21日
- ・大阪電気通信大学メカトロニクス基礎研究所特別講演会, 「受動適応クローラロボット「Scott」によるトンネル災害調査」, 大阪電気通信大学寝屋川キャンパス, 2015年3月18日

廣内大助

- ・長野県防災教室講演会, 「長野県の災害と学校の防災管理・防災教育の課題」, 長野県総合教育センター, 2014年6月12日

- ・まほらいな市民大学（信州大学出前講座）、「歴史から見る海溝型巨大地震とその被害予測～東日本大震災の教訓は生かせるか」、伊那市生涯学習センターホール，2014年6月27日
- ・朝陽地区住民自治協議会（信州大学出前講座）、「水害はどこで起こるのか－地図からわかる低地の水害予測」，朝陽地区公民館，2014年7月16日
- ・静岡県地質調査業協会第8回地盤技術講習会，「活断層と変動地形学～変動地形学から何がわかるのか」，静岡県産業経済会館，2014年7月25日
- ・教員免許状更新講習会，「地図から災害を考える－防災地理教育講座」，信州大学，2014年8月6日
- ・長野市第一地区住民自治協議会（信州大学出前講座）、「活断層大地震に備える」，第一地区公民館，2014年8月7日
- ・長野俊英高校教職員防災研修会，「長野県の災害と学校防災の課題～地域の危険を知る～東日本大震災から学ぶこと」，長野俊英高校，2014年10月1日
- ・「子供が作る防災マップ」作成のための職員研修会，「子どもが作る防災マップ作成の要点について」，長野市立信里小学校，2014年10月15日
- ・祢津小学校避難訓練講演会，「災害いつ、どこで起こるの？～祢津小学校のみなさんへ」，2014年11月4日
- ・長野朝日放送社内勉強会，「2014年長野県北部の地震（長野県神城断層地震）が提示する課題と長野県の活断層」，2014年12月22日
- ・組合立両小野中学校避難訓練講演会，「いざという時のために何ができるのか？」，2015年1月29日
- ・名古屋市歴史文化講演会（名古屋文化振興財団）、「歴史から学ぶ名古屋の地震災害」，名古屋南文化小劇場，2015年2月10日
- ・松川村立松川中学校学校防災地図づくり発表会，「いざという時のために何ができるのか？」，松川村すずの音ホール，2015年3月2日
- ・信州大学による11.22地震緊急調査報告会，「11.22地震の地表地震断層と糸魚川－静岡構造線活断層」，白馬村多目的研修集会施設，2015年3月7日

森田匡俊

- ・NPO法人DoChubuつながるマップ研究会，「帰宅困難者対策研究およびGPSを用いた避難訓練時の行動分析」，imyホール，2014年12月20日

安江健一

- ・大般若会（法要後の講話）、「東濃地域の地形と地質について」，自法寺（恵那市），2015年3月4日

■TV出演・新聞記事リスト

正木和明

- ・愛知県行政広報番組「地震から自分を守ろう！～あいちシェイクアウト訓練～」，東海テレビ「SKE48のあいちテル」，2014年8月30日（17：26～17：30）
- ・「緊急地震速報の利活用」，中部経済新聞，2014年4月11日
- ・「津波〇」，中部経済新聞，2014年5月29日
- ・「既往地震と工場被害～南海トラフ巨大地震への教訓～」，中部経済新聞，2014年7月25日
- ・「災害は変遷す～飢饉からゲリラ的災害へ～」，中部経済新聞，2014年10月27日

- ・「津波・噴火・隕石の関係」, 中部経済新聞, 2014年11月27日

建部謙治

- ・「高齢社会と災害、津波避難方法の再検討を」, 中部経済新聞, 2014年8月21日
- ・「高齢社会と地震対策、若者と違う身体反応に注意」, 中部経済新聞, 2014年6月23日
- ・「高齢社会と災害、福祉施設の防災対策急げ」, 中部経済新聞, 2014年4月12日

小池則満

- ・「南伊勢町 海上の避難マップづくり」, NHKほっとイブニング, 2015年2月9日 (18:10~19:00) および2015年2月17日 (18:00~18:30)
- ・「津波に備える 海上避難マップ」, NHKおはよう日本, 2015年3月10日 (5:00~6:30)
- ・「避難訓練と地域計画」, 中部経済新聞, 2014年1月16日
- ・「海から目線の津波防災」, 中部経済新聞, 2015年1月16日
- ・「海上避難地図作成へ」, 伊勢新聞, 2015年3月3日

小橋勉

- ・「自身を問うことから始める戦略」, 中部経済新聞, 2014年4月28日
- ・「組織で働くということ」, 中部経済新聞, 2014年6月10日
- ・「職場でのコミュニケーション」, 中部経済新聞, 2014年7月4日
- ・「戦略に合った組織のバランス」, 中部経済新聞, 2014年9月2日
- ・「能動的受動のススメ」, 中部経済新聞, 2014年10月6日
- ・「音楽が組織に与える力」, 中部経済新聞, 2014年10月30日
- ・「議論における全体性」, 中部経済新聞, 2014年11月27日
- ・「音楽がチームに与える力」, 中部経済新聞, 2014年12月24日
- ・「意思決定の理論と現実(1)」, 中部経済新聞, 2015年1月26日
- ・「意思決定の理論と現実(2)」, 中部経済新聞, 2015年2月18日
- ・「コア・コンピタンス経営：名作に学ぶ(1)」, 中部経済新聞, 2015年3月16日

服部亜由未

- ・「『鯨の街』復興を目指して」, 中部経済新聞, 2015年3月30日

■各種委員

正木和明

- ・愛知県有識者懇談会委員
- ・瀬戸市防災会議委員
- ・大府市防災会議委員
- ・(一社) 充填技術協会副理事長
- ・公益財団法人岐阜県産業経済振興センター「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業基金事業」炭鉱跡問題対策委員会委員長

- ・公益財団法人岐阜県産業経済振興センター「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業御嵩町地盤ぜい弱性判定基準委託業務」プロポーザル選定委員会委員長
- ・安城市総合評価競争入札施行要項第7条による学識経験者委嘱
- ・中部近畿地方保安協議会委員

入倉孝次郎

- ・文部科学省地震調査推進本部専門委員
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- ・内閣府南海トラフ巨大地震モデル検討会委員
- ・内閣府日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会委員
- ・IAEA（国際原子力機関）EBP-WA1議長
- ・IAEA（国際原子力機関）IASA ISSC科学委員会委員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所強震観測事業推進連絡会議委員
- ・社団法人日本地震学会IASPEI委員会委員
- ・社団法人日本地震学会災害調査委員会委員
- ・財団法人地震予知総合研究振興会サイスマテクトニクス研究会委員

建部謙治

- ・豊田市都市景観審議会委員・会長
- ・豊田市都市計画審議会委員
- ・日本インテリア学会東海副支部長

中村栄治

- ・大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会委員（精密工学会）

小池則満

- ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター
- ・名古屋市防災まちづくり計画検討会 委員
- ・南知多町津波避難計画策定委員会 委員
- ・日本都市計画学会 社会連携組織「避難訓練学の提唱および社会的実装に関する研究委員会」代表

奥川雅之

- ・日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門技術委員会第3地区技術委員長
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門レスキュー工学会部会幹事
- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会（A-TS10-40）」幹事
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会（A-TS10-39）」委員

- ・日本機械学会「評価・診断に関するシンポジウム」実行委員長
- ・計測自動制御学会「システムインテグレーション部門講演会」プログラム委員
- ・ロボティクスシンポジア」プログラム委員
- ・岐阜高専・各務原市連携事業ツアーガイドロボット開発推進委員会「ツアーガイドロボット開発プロジェクト」委員
- ・TPIPユーザーコミュニティ主査

山本義幸

- ・日本リモートセンシング学会学術委員
- ・横幹連合プログラム委員会プログラム委員

服部亜由未

- ・豊田市史執筆協力委員（近代部会）
- ・あいちシェイクアウト訓練実行委員
- ・とよた防災フェスタ実行委員

廣内大助

- ・日本地理学会災害対応委員会地域拠点委員
- ・独立行政法人 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門外来研究員
- ・国土交通省国土地理院 活断層情報整備検討委員会委員
- ・地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
- ・長野県地理学会幹事
- ・NPO法人レスキューストックヤード有識者パートナー
- ・国土交通省国土地理院治水地形判定委員会委員
- ・新修豊田市史執筆協力員（自然部会）
- ・長野県学校防災アドバイザー
- ・第3次長野県地震被害想定策定検討委員会委員
- ・原子力規制委員会志賀原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者委員
- ・名古屋市市政資料館調査協力員
- ・長野市防災基金運営委員会委員長

阿部亮吾

- ・地震に強いものづくり地域の会運営委員
- ・港区多文化共生推進協議会オブザーバー
- ・新修豊田市史調査協力員（現代部会）

■外部資金 獲得状況

正木和明

- ・森保宏・廣内大助・菅井径世・小川克郎・正木和明・加藤悟、「建物ごとに高精度に表示される地震ハザード

マップの構築とその活用に関する研究」課題番号 (25282100), 6,700,000円 (分担者金500,000円), 科学研究費補助金基盤研究B, 2013年4月～2016年3月

建部謙治

・建部謙治, 「医療福祉施設における震災時の初動体制に関する基礎的研究」, 1,600,000円, 科学研究費補助金, 2013年4月～2016年3月

小池則満

・小池則満・倉橋奨・廣内大助, 「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」 600,000円, 科学研究費助成事業助成基金 基盤研究C, 2012年4月～2014年3月

小橋勉

・小橋勉・小室達章・趙偉, 「合弁経験の知識移転メカニズムの分析」 910,000円, 科学研究費基盤研究 (C), 2013年4月～2017年3月

山本義幸

・山本義幸・中村栄治, 「高密度三次元点群データによる地下街のバリアフリー情報の構築」 1,900,000円, (一財) 日本建設情報総合センター研究助成, 2014年4月～2016年3月

廣内大助

・大西宏治・廣内大助・西村雄一郎・森田匡俊, 「湛水時間を考慮した洪水ハザードマップとそれを活用した災害図上訓練の開発」 課題番号 (24501287), 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 2012年4月～2015年3月

・小池則満・廣内大助・倉橋奨, 「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」 課題番号 (24590641), 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 2012年4月～2015年3月

・廣内大助・竹下欣宏・安江健一, 「横ずれ共役活断層における連動型地震の再評価」 課題番号 (25350426), 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者, 2013年4月～2016年3月

・田中敏・廣内大助・村松浩幸・島田英昭・水口崇・谷塚光典・西一夫・福田典子・橋本政晴・田中江扶・榊原保志・松本康・篠崎正典, 「教科間連携に基づいた共創型防災教育モデルの開発」 課題番号 (25285244), 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (B), 2013年4月～2016年3月

・森保宏・廣内大助・菅井径世・小川克郎・正木和明・加藤悟, 「建物ごとに高精度に表示される地震ハザードマップの構築とその活用に関する研究」 課題番号 (25282100), 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究代表者, 2013年4月～2016年3月

・廣内大助, 「2014年長野県北部の地震 (長野県神城断層地震) と糸魚川-静岡構造線北部の活断層」, 信州大学 学長裁量経費, 2014年4月～2015年3月

阿部亮吾

・阿部亮吾, 「オーストラリア型多文化主義の変容と移民エスニック空間の形成に関する研究」, 1,100,000円, 文部科学省科学研究費 若手 (A), 2015年4月～2019年3月

・阿部亮吾, 駒木伸比古・近藤暁夫・久保倫子・林琢也, 「名古屋大都市圏をモデルにした持続可能な地域政策

のための基礎研究－人口減少時代のコンパクト都市圏モデルを目指して－」1,980,000円，平成26年度国土政策関係研究支援事業，2014年7月～2015年3月

倉橋奨

- ・倉橋奨，「南海トラフ地震にも利用可能な緊急地震速報の構築」，416,000円，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B）），2013年4月～2015年3月
- ・小池則満・倉橋奨・廣内大助，「クリアランスタイムのある災害における要援護者搬送計画策定手法の開発」600,000円，科学研究費助成事業助成基金 基盤研究C，2012年4月～2015年3月

森田匡俊

- ・大西宏治・廣内大助・西村雄一郎・森田匡俊，「湛水時間を考慮した洪水ハザードマップとそれを活用した災害図上訓練の開発」416,000円，日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤研究（C），2012年4月～2015年3月
- ・森田匡俊，「マイクロジオデータを用いた災害時帰宅困難者対策ガイドラインに関する研究」，1,040,000円，日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金若手研究（B），2013年4月～2016年3月

安江健一

- ・安江健一，「肉眼観察で確認困難な断層変位基準の定量的把握手法の構築」文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究（C），2014年4月～2017年3月
- ・廣内大助・安江健一，「横ずれ共役活断層における連動型地震の再評価」文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究（C），2013年4月～2016年3月

■特許

中村栄治

- ・特願2015-05963，端末機認証システム，2015年3月23日

業績リスト

■論文（審査付）

正木和明

- ・ Xin Wang, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura : Inter-story shear wave velocity measurement of a damage building using microtremor records, Journal of Japan Association for Earthquake Engineering, Vol.14 (3) , pp.35-47, (2014.6)

入倉孝次郎

- ・ 池田隆明・小長井一男・釜江克宏・入倉孝次郎・清田隆・目黒公郎：断層モデルと地盤の非線形性を考慮した簡便な強震動予測手法の提案, 土木学会論文集A1（構造・地震工学）, 70(4), pp.252-262（2014）
- ・ Satoko Murotani, Shinichi Matsushima, Takashi Azuma, Kojiro Irikura, Sadayuki Kitagawa, Scaling Relations of Source Parameters of Earthquakes Occurring on Inland Crustal Mega-Fault Systems, Pure and Applied Geophysics PAGEOPH（December 2014）
- ・ Atsushi NOZU, Masayuki YAMADA, Takashi NAGAO, Kojiro IRIKURA, GENERATION OF STRONG MOTION PULSES DURING HUGE SUBDUCTION EARTHQUAKES AND SCALING OF THEIR GENERATION AREAS 日本地震工学会論文集, 14(6), pp.96-117（2014）
- ・ 赤澤隆士・入倉孝次郎・KiK-net, 地中観測記録を利用した震源特性・伝播経路特性評価手法の構築, 日本建築学会構造系論文集, 80(708), pp.231-240（2015.2）

建部謙治

- ・ 高橋郁夫・建部謙治・田村和夫：企業の緊急地震速報の活用に関する研究, 中小企業を中心としたアンケート調査に基づく分析, 日本建築学会環境系論文集, 80(709), pp.289-296（2015.3）
- ・ 建部謙治・宮治眞・天野寛・井出政芳：地震動による心理学的影響と生理との関係, 地震動による高齢者への心理・生理学的影響に関する実験的研究 その2, 日本建築学会計画系論文集, 80(708), pp.283-288（2015.2）

中村栄治

- ・ 森田匡俊・小林哲郎・小池則満・山本義幸・中村栄治・正木和明：GPSを用いた海水浴場避難訓練時の行動分析－愛知県南知多町を事例として－, 地域安全学会論文集, 25(5), pp.45-54（2014.7）

小池則満

- ・ 森田匡俊・小池則満・小林哲郎・山本義幸・中村栄治・正木和明：GPSを用いた海水浴場避難訓練時の行動分析－愛知県南知多町を事例として－, 地域安全学会論文集, 23(5), pp.45-54（2014.7）

小橋勉

- ・ 小橋勉：環境の不確実性と組織間関係, 組織科学, 48(3), pp.18-28（2014）

奥川雅之

- ・ M. Okugawa, Utilization of Robot Technology for Earthquake, Storm and Flood Disaster Problems in Tokai Region, Journal of Robotics and Mechatronics, 26(4), pp. 454-459 (2014.8)
- ・ S. Suzuki, S. Hasegawa and M. Okugawa, Remote Control System of Disaster Response Robot with Passive Sub-Crawlers Considering Falling Down Avoidance, ROBOMECH Journal, Vol.1, Issue 1, 20 (2014.11)

山本義幸

- ・ 草加大輝・杉山裕樹・清水康博・山本義幸・中村栄治・奥川雅之：アスファルト舗装面の点群データ解析－正常箇所と異常箇所の判読－，応用測量論文集，25，pp.66-74 (2014.6)
- ・ 森田匡俊・小池則満・小林哲郎・山本義幸・中村栄治・正木和明：GPSを用いた海水浴場避難訓練時の行動分析－愛知県南知多町を事例として－，地域安全学会論文集，23(5)，pp.45-54 (2014.7)

廣内大助

- ・ 廣内大助：活断層地震災害にどう備えるか－活断層情報とその活用，地学教育と科学運動，72，pp.79-82 (2014.6)
- ・ 鈴木康弘・渡辺満久・廣内大助：長野県神城断層地震が提起する活断層評価の問題，科学，85，pp.175-181 (2015.2)

倉橋奨

- ・ Susumu Kurahashi and Norimitsu Koike : TSUNAMI-GENERATION WARNING SYSTEM USING EARTHQUAKE EARLY WARNING, International Journal of GEOMATE, Vol.9, No.2, pp.1472-1476 (2015.12)
- ・ Norimitsu Koike and Susumu Kurahashi : AN EVALUATION MODEL OF MEDICAL TRANSPORT WITH TSUNAMI EARLY WARNING SYSTEM, International Journal of GEOMATE, Vol.9, No.2, pp.1447-1453 (2015.12)

森田匡俊

- ・ 森田匡俊・小池則満・小林哲郎・山本義幸・中村栄治・正木和明：GPSを用いた海水浴場避難訓練時の行動分析-愛知県南知多町を事例として-，地域安全学会論文集，23(5)，p.45-54 (2014.7)
- ・ 森田匡俊・鈴木克哉・奥貫圭一：日本の主要都市における直線距離と道路距離との比に関する実証的研究，GIS-理論と応用，22(1)，p.1-8 (2014.6)
- ・ SHIODE N., MORITA M., SHIODE S. and OKUNUKI K. : Urban and rural geographies of aging : a local spatial correlation analysis of aging population measures, Urban Geography, 35, p.608-628 (2014.4)

安江健一

- ・ 梅田浩司・安江健一・石丸恒存：地層処分と地質環境の長期安定性：地質環境の長期予測と不確実性についての検討例，原子力バックエンド研究，21，pp.43-47 (2014.6)
- ・ 安江健一・高取亮一・谷川晋一・二ノ宮 淳・棚瀬充史・古澤 明：内陸部における侵食速度の指標に関する検討：環流丘陵を伴う旧河谷を用いた研究，地質学雑誌，120，pp.435-445 (2014.12)
- ・ Yasue K., Ishimaru T., Kobori K., Umeda K. and Nakatsuka : Subsurface geological mapping of the Japanese Island, J. Geol. Soc. Jpn., Vol. 120, pp.XIII- XIV (2014.12)

■論文（審査なし）

廣内大助

- ・ 廣内大助・杉戸信彦・清水龍来：2014年11月22日長野県北部の地震（神城断層地震）に伴う地表変位と活断層，活断層研究（口絵）41， i - ii （2014.9）

■論文（研究報告集・紀要集）

奥川雅之

- ・ 奥川雅之，スマートストラクチャに関する研究動向と応用事例紹介，検査技術，19(6)， pp.13-17 （2014.6）

服部亜由未

- ・ 服部亜由未：史料翻刻「延宝四年丙辰年 北内田村 宗門御改并人別帳 三月十二日」，重要文化財馬場家住宅研究センター報告2014， pp.131-155 （2015.3）

■その他（報告書など）

廣内大助

- ・ 宮内崇裕・金田平太郎・廣内大助・松多信尚：1：25000都市圏活断層図「園部」，国土地理院技術資料D1-No.721 （2014）
- ・ 岡田篤正・楮原京子・熊原康博・澤 祥・廣内大助：1：25000都市圏活断層図「鳴門海峡」，国土地理院技術資料D1-No.719 （2014）

阿部亮吾

- ・ 阿部亮吾：社会地理，人文地理，66(3)， pp.52-55 （2014.6）
- ・ 阿部亮吾：1990年前後の名古屋大都市圏における「外国人労働者問題」－移民支援団体が発行するニュースレターに着目して－，多文化共生研究年報，第10号・11号合併号， pp.3-17 （2014.3）

■学会発表・プロシーディングス

正木和明

- ・ Wang Xin, Motosaka Masato, Masaki Kazuaki, Irikura Kojiro, Hisada Yoshiaki：The effect of torsional and bending vibration on shear-wave velocity extraction from records by seismic interferometry for 1D system identification，日本地球惑星科学連合2014大会予稿集，SSS26-12 （2014.5）
- ・ 田頭庄三・正木和明・入倉孝次郎：超高層建築物における震動モードとせん断波速度に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）B-2分冊， pp.973-974 （2014.9）
- ・ 王欣・正木和明・入倉孝次郎・源榮正人・久田嘉章：逆重畳法によるせん断波の抽出手法を用いた超高層ビルへのヘルスマモニタリングの適用性の検討，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）B-2分冊， pp.113-114 （2014.9）
- ・ Kazuaki Masaki and Susumu Kurahashi：Earthquake Early Warning System to mitigate Earthquake Damage in Facilities in the Tokai Industrial Region, Central Japan, The 5th Conference on Earthquake

Engineering, Taipei, #00231 (2014.10.16-18)

- ・ Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura and Susumu Kurahashi : Fragility Curves of Building in North of Miyagi Prefecture during the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, 5th Conference on Earthquake Engineering, Taipei, #00167 (2014.10.16-18)
- ・ Xin Wang, Masato Motosaka, Kazuaki Masaki, Irikura Kojiro, Yoshiaki Hisada : Story-by-story Shear-wave Velocity Extraction from Microtremor Records of High-rise Building by Seismic Interferometry, 5th Conference on Earthquake Engineering, Taipei, #00025 (2014.10.16-18)
- ・ 王欣・正木和明・入倉孝次郎・源栄正人・久田嘉章：超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘルスマニタリングへの応用, PS2-Fri-29, 第14回日本地震工学シンポジウム, 幕張メッセ, (2014.12.4-6)

入倉孝次郎

- ・ 入倉孝次郎・倉橋奨：長周期地震動のための緊急地震速報の高度化, 日本地球惑星科学連合大会, パシフィコ横浜 (2014.4.28~5.2)
- ・ Kojiro Irikura : Multi-Scale Heterogeneity Model for Predicting Strong Ground Motions from Mega-Thrust Subduction Earthquakes, 5th Asia Conference on Earthquake Engineering (5ACEE) , Taipei, Taiwan (October 16-18, 2014)
- ・ 入倉孝次郎：1964年新潟地震と安芸敬一, 日本地震学会2014年度秋季大会, 特別セッション「新潟地震50周年・新潟県中越地震10周年：これからの地震研究と災害軽減」招待講演, 新潟 (2014.11.24~26)
- ・ 入倉孝次郎・宮腰研・釜江克弘：強震動記録を用いた震源インバージョンに基づく国内の内陸地殻内地震の震源パラメータのスケーリング則の再検討, 第14回日本地震工学シンポジウム論文集, CD-ROM, OS2-Fri-AM-5 (2014)
- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎：2011年東北地方太平洋沖地震における強震動生成域からの長周期地震動, 第14回日本地震工学シンポジウム論文集, CD-ROM, OS1-Sat-AM-8 (2014)
- ・ 王欣・正木和明・入倉孝次郎・源栄正人・久田嘉章：「超高層ビルの層間せん断波速度の抽出およびヘルスマニタリングへの応用」, 第14回日本地震工学シンポジウム, 幕張メッセ (2014.12.4-6)

建部謙治

- ・ 鄂芳尊・建部謙治：子どもの心象風景に関する研究, 瀬戸市児童の意識の移り変わり, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.537-538 (2014.9)
- ・ 建部謙治・田村和夫・高橋郁夫・宮治眞・天野寛：震災時における病院の初動体制踏査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.1049-1050 (2014.9)
- ・ 建部謙治・田村和夫・高橋郁夫・宮治眞・天野寛：東北・東海地方の病院における緊急地震速報の活用状況, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.131-132 (2014.9)
- ・ 建部謙治：料亭の利用者による視覚的印象評価特性, 日本インテリア学会大会研究発表梗概集No.26, pp.37-38 (2014.10)
- ・ 鄂芳尊・建部謙治：中国内モンゴルフルンボイル市における子どもの心象風景, 日本瀬戸市の子どもとの比較, 日本建築学会東海支部研究報告集第53号, pp.453-456 (2015.2)

中村栄治

- ・ 中村栄治・山本義幸：地下空間の可視化に向けて, SPAR-J, 川崎 (2014.6)

小池則満

- ・中嶋浩人・小池則満：宿泊施設の津波防災対策に関する一考察～愛知県南知多町を事例として～，土木学会土木計画学研究発表会講演集CD-ROM, P4 (2014.11)
- ・和田剛・小池則満：船舶津波避難訓練を通じた津波避難意思決定に関する研究～三重県南伊勢町を事例として～，土木学会中部支部研究発表会講演集CD-ROM, IV-45, (2015.3)
- ・岡田佳亮・小池則満：中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実践的研究～岡崎市立常磐東小学校を事例として～，土木学会中部支部研究発表会講演集CD-ROM, IV-51 (2015.3)
- ・中嶋浩人・小池則満：宿泊施設の津波災害の事業計画に関する一考察～愛知県南知多町を事例として～，土木学会中部支部研究発表会講演集CD-ROM, IV-53 (2015.3)

小橋勉

- ・小橋勉，歴史研究の診断への意義，第47回日本経営診断学会中部部会，愛知工業大学 (2014.7.19)
- ・「からくり」視座に基づく組織イノベーションに関する一考察，第47回日本経営診断学会中部部会研究発表会，愛知工業大学本山キャンパス (2014.7.19)
- ・Kobashi T., Komuro T., and W. Zhao : "Longitudinal Analysis of International Joint Venture, " Clute Int'l Conference San Francisco 2014, Sheraton Fisherman's Wharf (2014.8.4)
- ・Kobashi T., Komuro T. and W. Zhao : Longitudinal Analysis of International Joint Venture, " International Conference on Information and Social Science (ISS) Nagoya 2014, グランコート名古屋 (2014.9.8)
- ・曾我部佳祐・小橋勉：中小企業における意思決定と業績の関係，第49回日本経営診断学会中部部会研究発表会，愛知工業大学本山キャンパス (2014.9.13)
- ・王瑤寧・小橋勉：中国市場におけるユニクロのブランド構築，第49回日本経営診断学会中部部会研究発表会，愛知工業大学本山キャンパス (2014.9.13)
- ・曾我部佳祐・小橋勉：中小企業における意思決定と業績の関係，第47回日本経営診断学会全国大会，明治大学駿河台キャンパス (2014.11.7)
- ・韓三澤・小橋勉：「からくり」視座に基づく組織イノベーションに関する一考察，第47回日本経営診断学会全国大会，明治大学駿河台キャンパス (2014.11.8)

奥川雅之

- ・H. Ito and M. Okugawa : Natural Frequency Identification of Smart Washer by using Adaptive Observer, Proceedings of the SPIE 21th Annual International Symposium on Smart Structures and Materials + Nondestructive Evaluation and Health Monitoring : Sensors and Smart Structures Technologies for Civil, Mechanical and Aerospace Systems 2014, Vol.9061, 90613T (2014.3)
- ・松原秀彦・鈴木壮一郎・奥川雅之：スタースレーブ制御による環境測定用アームの操作性評価，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集，1P2-G05 (2014.5)
- ・浅井友将・鈴木壮一郎・奥川雅之：受動サブローラーを有するローラー型ロボットの可変角度拘束機構，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集，1P2-F08 (2014.5)
- ・山本敦士・奥川雅之：Ball and Beam制御問題に対する予見制御系の適用，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集，3P2-I03 (2014.5)
- ・仲野和也・奥川雅之：動特性を考慮した車輪型移動ロボットの自己位置推定，日本機械学会ロボティクス・メ

- カトロニクス講演会2014講演論文集, 2A2-S04 (2014.5)
- ・鈴木壮一郎・奥川雅之：受動可動アームを有する形状可変クローラ型移動ロボットの張力調整機構の評価, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集, 1P2-H06 (2014.5)
 - ・勝玄毅・奥川雅之：Hector SLAMにより生成された環境地図の評価, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集, 2A2-U02 (2014.5)
 - ・岩熊孝幸・金澤拓也・野村泰朗・白上敬一・奥川雅之：レスキューロボットコンテストシーズのための機材開発 —安価なワイヤ駆動ハンド教材の考案とワークショップ展開—, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集, 1P2-S04 (2014.5)
 - ・土井智晴・奥川雅之・山内仁・宗澤良臣・大坪義一・衣笠哲也：ICT技術を活用したレスキューベストの開発, 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2014講演論文集, 3P1-I09 (2014.5)
 - ・鈴木壮一郎・浅井友将・奥川雅之：可変角度拘束機構を用いた受動サブクローラを有するクローラ型移動ロボットの段差踏破性評価, 日本機械学会機械力学計測制御部門講演会 Dynamics and Design Conference 2014 講演論文集, Paper No.731 (2014.8)
 - ・伊藤準・奥川雅之：可変ゲイン型適応オブザーバによるスマートワッシャの固有振動数同定精度の評価, 日本機械学会2014年度年次大会講演論文集, J0450403 (2014.9)
 - ・H. Ito and M. Okugawa : Natural Frequency Identification of Smart Washer by Using Adaptive Observer with Time-Varying Adaptive Gains, Proceedings of the 25th International Conference on Adaptive Structures and Technology, Paper No.15 (2014.10)
 - ・伊藤準・奥川雅之：可変ゲイン型適応オブザーバによるスマートワッシャの固有振動数同定, 日本機械学会第13回評価・診断に関するシンポジウム講演論文集, pp.104-109 (2014.12)
 - ・浅井友将・鈴木壮一郎・奥川雅之：受動サブクローラを有するクローラ型移動ロボットの拘束角度制御, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.319-324 (2014.12)
 - ・鈴木壮一郎・浅井友将・奥川雅之：サブクローラの影響を考慮した受動適応クローラロボットの段差踏破, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.325-330 (2014.12)
 - ・松原秀彦・鈴木壮一郎・浅井友将・勝玄毅・渡邊彩夏・奥川雅之：情報収集マニピュレータの走破性への影響と可動範囲に関する考察, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.1067-1072 (2014.12)
 - ・石井英祐・尾坂甚伍・岩井健吾・大阪府大高専福祉科学研究会・チームSANZOU・寺西大・土井智晴・伍賀正典・奥川雅之・松本慎平：レスキューロボットコンテスト・シーズ・ジャンボリー2014 in KOBEの実施報告, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.1082-1085 (2014.12)
 - ・渡邊彩夏・岩熊孝幸・奥川雅之：市販教材を使ったレスキューロボット工作教室, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.1089-1094 (2014.12)
 - ・岩藤竜飛・衣笠哲也・土師貴史・栗栖正充・奥川雅之・吉田浩治・天野久徳・林良太：柔軟全周囲クローラ RT05-COBRAの開発, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.1241-1243 (2014.12)
 - ・横小路泰義・奥川雅之・宗澤良臣・山内仁・土井智晴：第14回レスキューロボットコンテストの総括, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.1786-1789 (2014.12)
 - ・仲野和也・奥川雅之：屋内GIS生成を考慮した移動ロボットの自己位置推定, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2014), pp.2098-2103 (2014.12)

山本義幸

- ・ Yoshiyuki Yamamoto : TRACKING MULTIPLE PEOPLE WITH MULTIPLE GPS DATA LOGGERS, 土木学会第69回年次学術講演会論文集, CS2-052 (2014.9)

服部亜由未

- ・ 奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・服部亜由未・平松晃一：近世尾張の村ポリゴンデータ構築と田畑分布, 地理情報システム学会講演論文集23 (CD-ROM), C-6-2 (2014.11)
- ・ 服部亜由未・奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・平松晃一：明治初期の町村域GISデータ作成－長野県を事例として－, 地理情報システム学会講演論文集23 (CD-ROM), C-7-4 (2014.11)
- ・ 服部亜由未・森田匡俊・小池則満・和田剛・中村栄治：「海から目線」の防災－三重県南伊勢町における海上津波避難マップ作成に向けて－, 2015年日本地理学会春季学術大会発表要旨集No.87, p.345 (2015.3)

廣内大助

- ・ 安江健一・廣内大助・國分陽子・松原章浩・古澤明：放射性炭素年代を用いた黒色土の層序対比と断層変位基準認定への活用, 日本地球惑星科学連合2014年大会, パシフィコ横浜 (2014.5)
- ・ 石山達也・廣内大助・佐藤比呂志・鈴木毅彦・小林健太・郡谷順英・小俣雅志・柴田剛：立川断層帯・狭山神社地点のピット調査, 日本地球惑星科学連合2014年大会, パシフィコ横浜 (2014.5)
- ・ 村松浩幸・西澤宏嘉・島田英昭・田中敏・廣内大助・谷塚光典・水口崇：「共創型」の防災教育モデルに基づいた中学校技術科での防災関連学習の提案, 日本産業技術教育学会第57回全国大会, 熊本大学 (2014.8.23)
- ・ 安江健一・廣内大助・松原章浩・國分陽子：活断層露頭における黒色土の放射性炭素年代の深度分布によるイベント認定の試み, 日本地質学会, 鹿児島大 (2014.9)
- ・ 廣内大助・安江健一・道家涼介・佐藤善輝・杉戸信彦・松多信尚：阿寺断層帯中部における後期更新世以降の断層運動－中津川市加子母二渡地区トレンチ調査－, 日本地質学会, 鹿児島大 (2014.9)
- ・ Hiroyuki Muramatsu, Hiroyoshi Nishizawa, Hideaki Shimada, Satoshi Tanaka, Daisuke Hirouchi, Misyunori.Yatsuka and Takashi.Mizuguchi : Proposal of Disaster Prevention Learning in Junior High School Technology Education Based on Disaster Prevention Education Goal Taxonomy and Model, 11th International Conference on Technology Education in the Asia Pacific Region, Hong Kong (2015.1)
- ・ Hirouchi D., Sugito N, Kaneda H., Goto H., Matsuta N., and Geomorphological Research Group for the 2014 Kamishiro Fault Earthquake : Surface rupture associated with the 2014 Kamishiro fault earthquake, central Japan : A preliminary report on field reconnaissance surveys, Hokudan 2015 International Symposium on Active Faulting, Awaji Yumebutai International Conference Center (2015.1)
- ・ Sugito N., Goto H., Ishiguro S., Suzuki Y., Hirouchi D. and Geomorphological Research Group for the 2014 Kamishiro Fault Earthquake : Surface rupture associated with the 2014 Kamishiro fault earthquake, central Japan : Comparison between pre- and post-earthquake aerial photographs, Hokudan 2015 International Symposium on Active Faulting, Awaji Yumebutai International Conference Center (2015.1)
- ・ Ishiguro S, Watanabe M, Kumahara Y., Nakata T., Goto H., Kitano S., Miyauchi T., Kagohara K., and Geomorphological Research Group for the 2014 Kamishiro Fault Earthquake (Hirouchi.D et.al) : Digital Surface Model for surface fault ruptures of the 2014 Kamishiro fault earthquake, central Japan, based on UAV and high-pole photography and SfM-MVS analysis, Hokudan 2015 International Symposium on Active

- Faulting, Awaji Yumebutai International Conference Center (2015.1)
- ・ Matsuta N., Goto H., Sugito N., and Geomorphological Research Group for the 2014 Kamishiro Fault Earthquake (Hirouchi.D et.al) : Surface rupture associated with the 2014 Kamishiro fault earthquake, central Japan : TLS (Terrestrial Laser Scanner) , TS (Total Station) and AL (Auto Level) measurements, Hokudan 2015 International Symposium on Active Faulting, Awaji Yumebutai International Conference Center (2015.1)
 - ・ Sawa H., Matsuta N., Watanabe M., Suzuki Y., Nakata T. and Geomorphological Research Group for the 2014 Kamishiro Fault Earthquake (Hirouchi.D et.al) : Surface rupture associated with the 2014 Kamishiro fault earthquake, central Japan : Implications to tectonic geomorphology and long-term earthquake prediction, Hokudan 2015 International Symposium on Active Faulting, Awaji Yumebutai International Conference Center (2015.1)
 - ・ 鈴木康弘・廣内大助・渡辺満久・2014年神城断層地震地形調査グループ：2014年長野県神城断層地震が提起した問題，日本地理学会春季学術大会，日本大学（2015.3）
 - ・ 石黒聡士・渡辺満久・熊原康博・中田高・後藤秀昭・北野志歩・宮内崇裕・楳原京子・2014年神城断層地震地形調査グループ（廣内大助ほか）：UAVによる写真撮影と細密DSMにもとづく2014年長野県北部の地震に伴う地表地震断層の変位量計測，日本地理学会春季学術大会，日本大学（2015.3）
 - ・ 廣内大助・杉戸信彦・金田平太郎・後藤秀昭・松多信尚・鈴木康弘・2014年神城断層地震地形調査グループ：2014年長野県北部の地震（神城断層地震）に伴う地表地震断層，日本地理学会春季学術大会，日本大学（2015.3）
 - ・ 竹内裕希子・廣内大助・西村雄一郎：愛媛県西条市における学校防災教育の取り組み状況と総合的防災教育プログラムの開発，日本地理学会春季学術大会，日本大学（2015.3）

阿部亮吾

- ・ 阿部亮吾：シドニー大都市圏郊外におけるフィリピン系移民の組織化と多様性－2000年代の新しい動向に着目して－，日本移民学会第24回年次大会，和歌山大学（2014.6）
- ・ 阿部亮吾：エスニシティと多文化理論を都市地理学から考える，愛知教育大学地理学会2014年度大会，愛知教育大学（2014.6）

倉橋奨

- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎：広帯域の強震動波形を用いた岩手・宮城内陸地震の強震動生成域の構築，日本地球惑星科学連合2014，横浜パシフィコ（2014.4）
- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎：P波震動波形からS波最大動の波形を即時予測する方法の提案，土木学会全国大会，大阪大学豊中キャンパス（2014.9）
- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎（愛工大）・吉田邦一・宮腰研（地盤研）：広帯域強震動予測のためのすべり時間関数の設定，地震学会秋季大会2014，朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター（2014.11）
- ・ Norimitsu Koike and Susumu Kurahashi : The evaluation model of medical transport with tsunami early warning system, Fourth International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Volume4 (1) , pp.458-463 (2014.11)
- ・ Susumu Kurahashi and Norimitsu Koike : Tsunami-generation warning system using the Earthquake Early Warning system, Fourth International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Volume4 (1) , pp.490-463 (2014.11)

- ・倉橋奨・入倉孝次郎：2011年東北地方太平洋沖地震における強震動生成域からの長周期地震動，第14回日本地震工学シンポジウム，幕張メッセ国際会議場（2014.12）

森田匡俊

- ・森田匡俊・小池則満・小林哲郎：GPSデータを用いた小学生の集団津波避難行動の分析，2014年度立正地理学会研究発表大会，立正大学（2014.6）
- ・奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・服部亜由未・平松晃一：近世尾張の村ポリゴンデータ構築と田畑分布，地理情報システム学会講演論文集23（CD-ROM），C-6-2（2014.11）
- ・服部亜由未・奥貫圭一・溝口常俊・森田匡俊・平松晃一：明治初期の町村域GISデータ作成－長野県を事例として－，地理情報システム学会講演論文集23（CD-ROM），C-7-4（2014.11）
- ・森田匡俊・落合鋭充・奥貫圭一：大規模災害時における安全な徒歩帰宅実現のためのグループ作成に関する研究，日本地理学会発表要旨集87，p.103（2015.3）
- ・服部亜由未・森田匡俊・小池則満・和田剛・中村栄治：海から目線の防災－三重県南伊勢町における海上津波避難マップ作成に向けて－，日本地理学会発表要旨集87，p.345（2015.3）

安江健一

- ・石丸恒存・島田耕史・佐々木亮道・田中遊雲・宮崎真之・安江健一・丹羽正和・末岡 茂・梅田浩司・池田真輝典：高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破碎帯等の追加地質調査の現況について，日本地球惑星科学連合2014年大会，HCG36-08（2014.4）
- ・國分陽子・松原章浩・花木達美・安江健一・梅田浩司：日本原子力研究開発機構東濃地科学センターJAEA-AMS-TONOにおける加速器質量分析装置を用いた地球科学研究，日本地球惑星科学連合2014年大会，HTT35-P01（2014.5）
- ・佐々木亮道・安江健一・島田耕史・立石 良・石丸恒存・田中遊雲：高速増殖原型炉もんじゅ敷地周辺の直線的な地形等に関する調査，日本地球惑星科学連合2014年大会，HCG36-P01（2014.4）
- ・島田耕史・立石良・石丸恒存・佐々木亮道・田中遊雲・宮崎真之・安江健一・丹羽正和・末岡茂・梅田浩司・池田真輝典：破碎帯の新旧評価について－高速増殖原型炉もんじゅ敷地の花崗岩体の事例－，日本地球惑星科学連合2014年大会，HCG36-P02（2014.4）
- ・末岡茂・安江健一・丹羽正和・島田耕史・石丸恒存・梅田浩司・山田隆二・檀原徹・岩野英樹・郷津知太郎：敦賀地域江若花崗岩中に分布する破碎帯の冷却史：複数の熟年代学的手法による制約，日本地球惑星科学連合2014年大会，SCG63-P01（2014.5）
- ・安江健一・廣内大助・國分陽子・松原章浩・古澤明：放射性炭素年代を用いた黒色土の層序対比と断層変位基準認定への活用，日本地球惑星科学連合大会予稿集，SSS34-P01（2014.5）
- ・佐藤善輝・安江健一・須貝俊彦：後期更新世以降における岐阜県大湫盆地の堆積環境変遷，日本第四紀学会講演要旨集，P1-09（2014.9）
- ・石丸恒存・島田耕史・末岡茂・安江健一・丹羽正和・梅田浩司：高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破碎帯の調査結果，日本地質学会第121年学術大会講演要旨集，p.179（2014.9）
- ・島田耕史・石丸恒存・末岡茂・安江健一・丹羽正和・梅田浩司：江若花崗岩中の小規模破碎帯の剪断センスの逆転，日本地質学会第121年学術大会講演要旨集，p.307（2014.9）
- ・梅田浩司・安江健一・石丸恒存：地質環境の長期予測と不確実性の検討，日本地質学会第121年学術大会講演要旨集，R24-P-4（2014.9）

- ・安江健一・廣内大助・松原章浩・國分陽子：活断層露頭における黒色土の放射性炭素年代の深度分布によるイベント認定の試み，日本地質学会第121年学術大会講演要旨集，R22-P-11（2014.9）
- ・田島靖久・安江健一・及川輝樹：御嶽山，2014年噴火における9月28日以後の噴出量解析，日本火山学会講演予稿集2014，UP-06（2014.11）

■ 著書

服部亜由未

- ・服部亜由未：名古屋のまちと堀川，溝口常俊編『古地図で楽しむなごや今昔』，風媒社，pp.143-148（2014.4）

廣内大助

- ・廣内大助：2014年長野県神城断層地震と活断層地図，鈴木康弘編『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』，岩波書店，pp.153-156，（2015.3）

阿部亮吾

- ・阿部亮吾：多文化共生の制度化と都市のロカリティ，中部都市学会編『中部の都市を探る－その軌跡と明日へのまなざし－』，風媒社，pp.58-73（2015.1）

森田匡俊

- ・前田洋介・岡本耕平・森田匡俊：Web-GISの利用，鈴木康弘編『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』，岩波書店，pp.191-194（2015.3）
- ・森田匡俊：リスク理解に役立つGIS，鈴木康弘編『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』，岩波書店，pp.222-227（2015.3）